

この学校にわたしたち

2022. 06. 6 N013

引き渡し訓練に思う



引き渡し訓練。有難うございました。近年、異常気象はますます進み、大洪水・竜巻・巨大台風など日本でも頻繁に耳にするようになりました。最近でも北海道・東北・関東・近畿などで震度5前後の大きな地震が発生しており、いつどこで巨大地震が起こってもおかしくない状況が続いており、大変気になるところです。災害はいつどこで起こるか分かりません。子どもたちが万が一の場合、自分の命を守るためにどう行動すればよいのかを学校・家庭でも考えさせていきたいと思えます。

11年前、東日本大震災の直後、あるテレビ番組で3月11日の大地震の時の東京ディズニーランドのキャストの対応を取り上げていました。それは、液状化現象が起こり、噴水の水が地震の激しい揺れによってあふれ出ている中でもすべてのキャストが冷静にそして、マニュアルにしばられることなく「全てはお客様のために」という一点で誘導を行ったという内容でした。その裏には年間180回にも及び最悪の事態を想定した真剣な訓練があったそうです。毎回毎回の防災訓練。大事と知っていても「面倒だな」と思ってしまうがちになります。気を抜いて訓練をしていると実際に重大な命の危険にあった時、人間は危険回避の行動がとれないのだそうです。数年前に読んだ本の中に書かれていましたが、アメリカで起きた9・11テロ。ある会社では、テロ以前から警備責任者が抜き打ちの避難訓練を頻繁に行い、だらだらと非常階段を下りる社員を叱り飛ばしていたそうです。しかし、そのおかげでテロにあった社員たちは「魔法をかけたよう」に迅速に避難し、ほとんどが助かったそうです。学校では、現実的に180回もの訓練をしていくことは難しいですが、引き渡し訓練・避難訓練等、1回1回を真剣にしていかなければならないと改めて思いました。そして、学校もマニュアルにとらわれず、安全を第一に臨機応変に対応できるように、心がけていきたいと思えます。保護者の皆様にはご多忙の中、ご参加いただき有難うございました。

キャストたちには四つの行動基準を徹底した。「Safety（安全）」「Courtesy（礼儀正しさ）」「Show（ショー）」「Efficiency（効率）」。頭文字から「SCSE」と呼ばれるこの基準では最初のS、つまり「来園者の安全」が最も優先された。